

# 噴火湾環境情報 NO.1

2019/9/27

## 津軽暖流、湾内中層に流入

道総研函館水産試験場  
調査研究部  
担当:西田, 渡野邊

2019年9月9～10日にかけて、噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しました。湾内水温は、深度10mが21℃、深度30mが17～19℃で、深度10mでは平年並みですが、深度30mでは例年よりも2～4℃高くなっています(図1)。50m深水温と塩分の水平分布から、津軽暖流水(指標:水温6℃以上、塩分33.6以上)が胆振側を中心に分布しています。湾口部には湾内水が分布していることから、津軽暖流の湾内流入は一時中断している模様です。湾内の50m深水温は津軽暖流が分布している海域で例年よりも1～2℃高くなっています。津軽暖流の湾内占有率は6.2%とほぼ平年並みです(図2)。

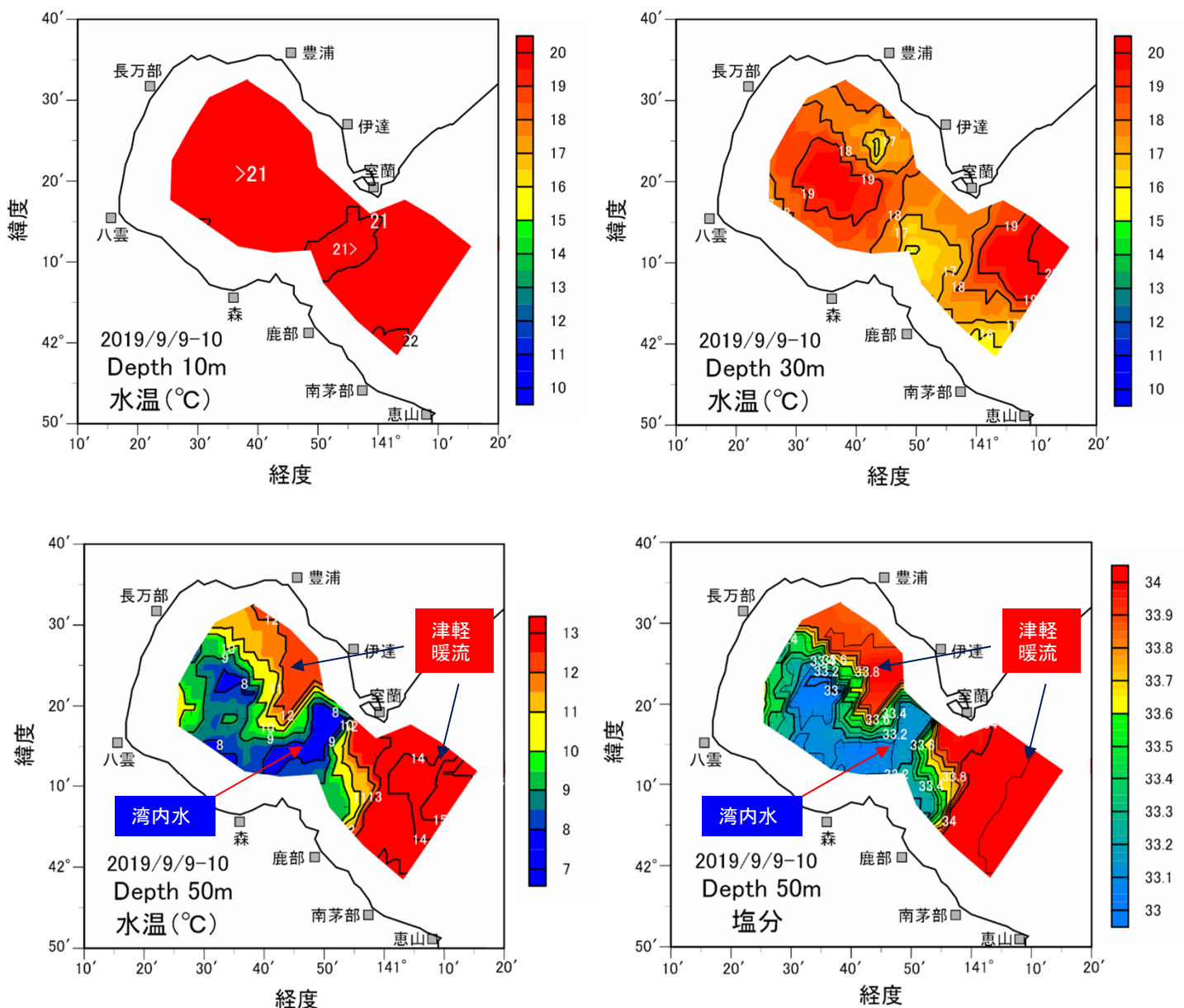


図1 噴火湾およびその周辺海域における水温(深度10m、30m、50m)と塩分(深度50m)の水平分布

※本調査及び情報配信は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究として実施しています。

噴火湾底層の溶存酸素量は全域3ml/l以上であり、7月下旬に湾中央部底層を中心に形成されていた貧酸素水塊(指標:3ml/l以下)は解消されました(図3)。

湾内外の流速ベクトルの水平分布を図4に示します。湾内表層(深度15m)では時計回りの渦が形成されています。この渦は6月から継続してみられていますが、今後、津軽暖流の流入量が増えるとともに解消していくと考えられます。

一方湾外の中層(深度55m)では、反時計回りの循環流がみられます。湾外が時計回りの循環流の時に暖流は湾内へ流入すると推察されていることから、この反時計回りの流れにより、津軽暖流の湾内流入は一時中断されたものと推察されます。

次の調査は11月下旬を予定しています。

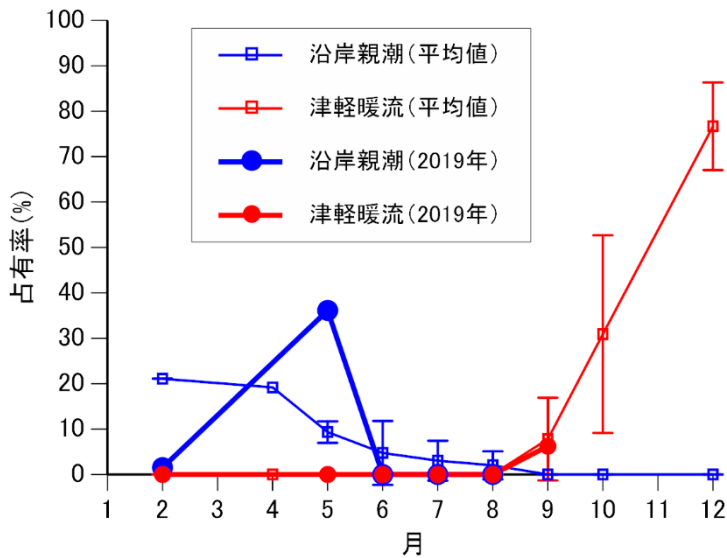


図2 噴火湾における沿岸親潮, 津軽暖流水の占有率

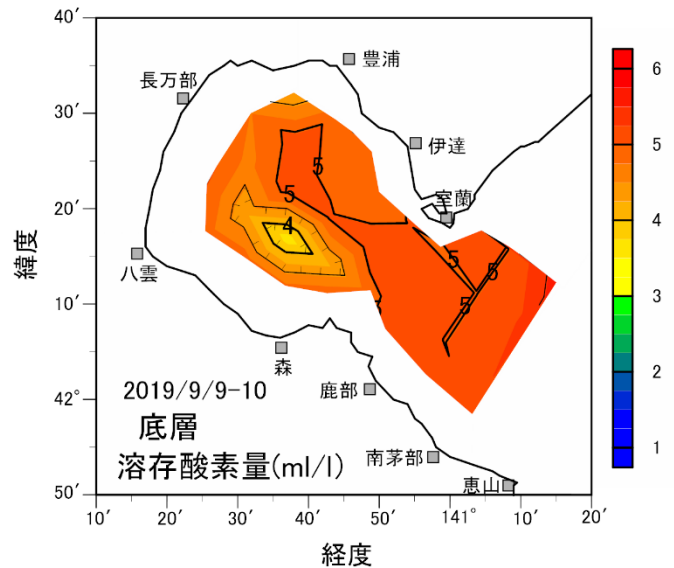


図3 底層の溶存酸素量

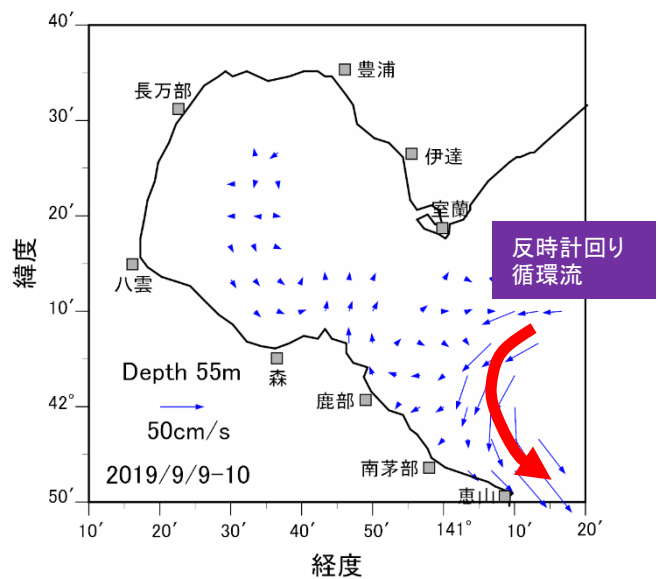
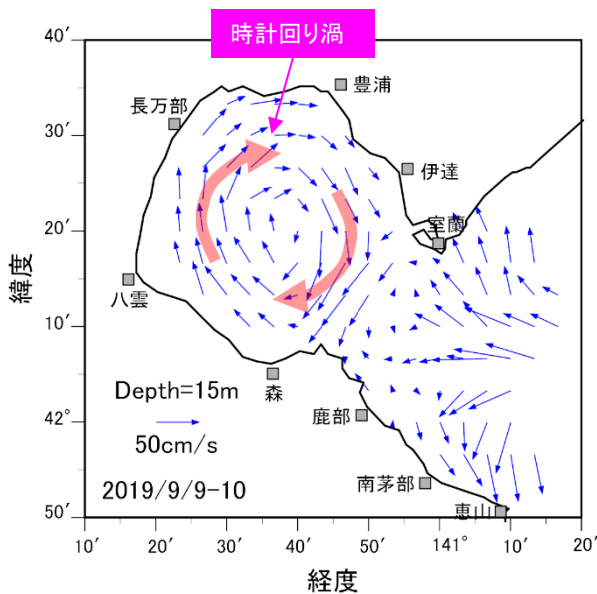


図4 流速ベクトルの水平分布  
(左)深度15m(右)深度55m